

結城一高生が病院を体験

結城一高の2年生、坂本葵さんと北嶋楓さんの2人が、10月8日から10日の3日間、インターシップとして城西病院で看護師の体験をしました。

実習に先立ち、2人は救急処置室やCTスキャン室、手術室、検査室、リハビリ室など、ふだんは立ち入ることのできない場所を見学。専門の職員から、詳しく仕事の説明を聴いたり、その仕事に就くにはどのような資格が必要なのかなど、病院で働く数多くの人たちに関心を寄せていました。

病棟実習は、外科病棟、回復期リハビリ病棟、内科病棟を1日ずつ体験しました。介護補助業務と患者さんの日常生活の援助。体温や血圧測定、薬の配布など日常の業務を見学し、患者さんを車いすに乗せてトイレや食堂まで押していくなど、看護や介護の一端を体験しました。

坂本さんは、「将来、獣医になりたい」という希望を持っています。今回の介護体験では「立ちっぱなしで疲れましたが、楽しかった。患者さんや看護師さんとの触れ合いがあり、医療の仕事もいいなと思いました」と語っていました。

北嶋さんの将来の夢は看護師といます。「自分がなりたい仕事で、現実の職場を見ることができてよかったです」と語る。「大変だけど、やりがいのある仕事だと改めて感じました。例えば、薬を患者さんに配る時でも絶対にミスが許されない職場だと分かりました。足の悪いおばあさんが、『大丈夫だよ』と言って立とうとしていましたが、車椅子を持ってきて座ってトイレに行った時には、自分が役に立っていると感じ、嬉しかった」と話していました。

平成26年10月10日



血液検査の様子に見入る2人



CTスキャンで撮影された画像を見る2人



手術室を見学する2人



入院中の患者さんのヒゲを剃る看護補助も体験